

きざまれたものからみあうとき

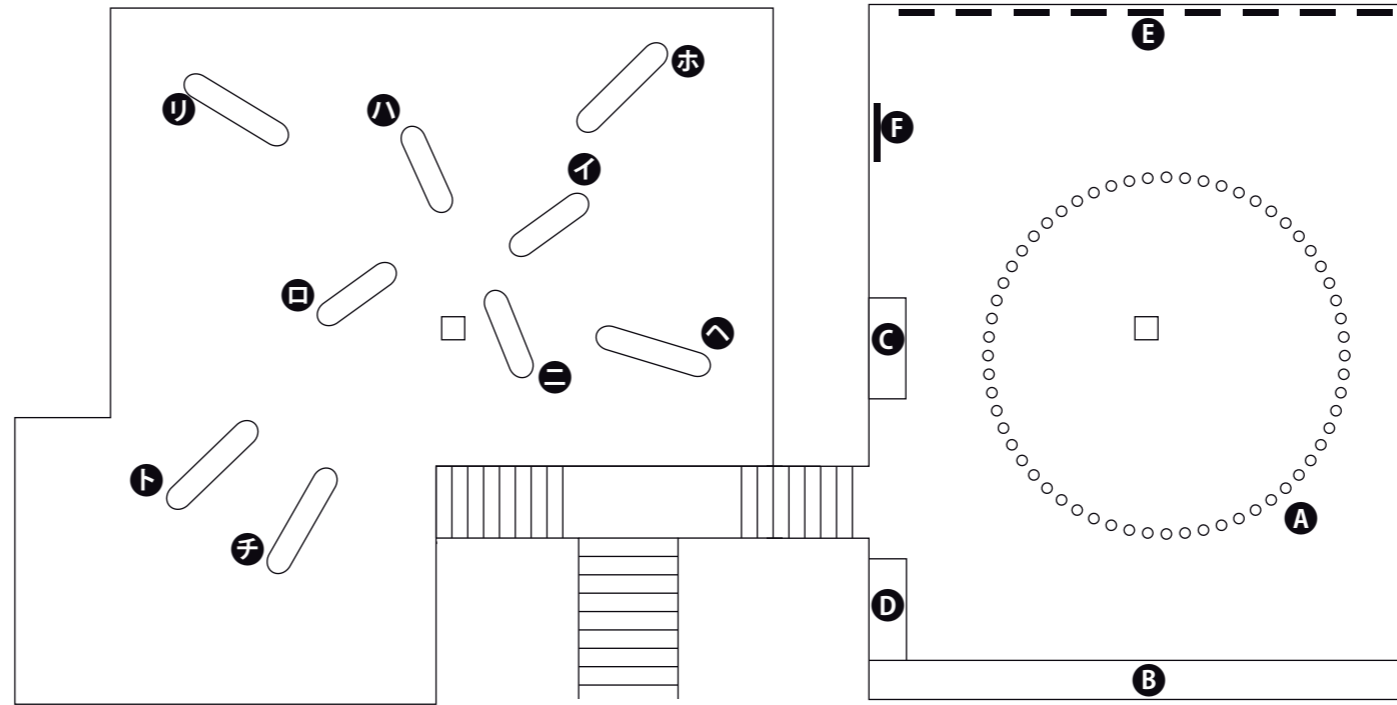
山添潤

石彫

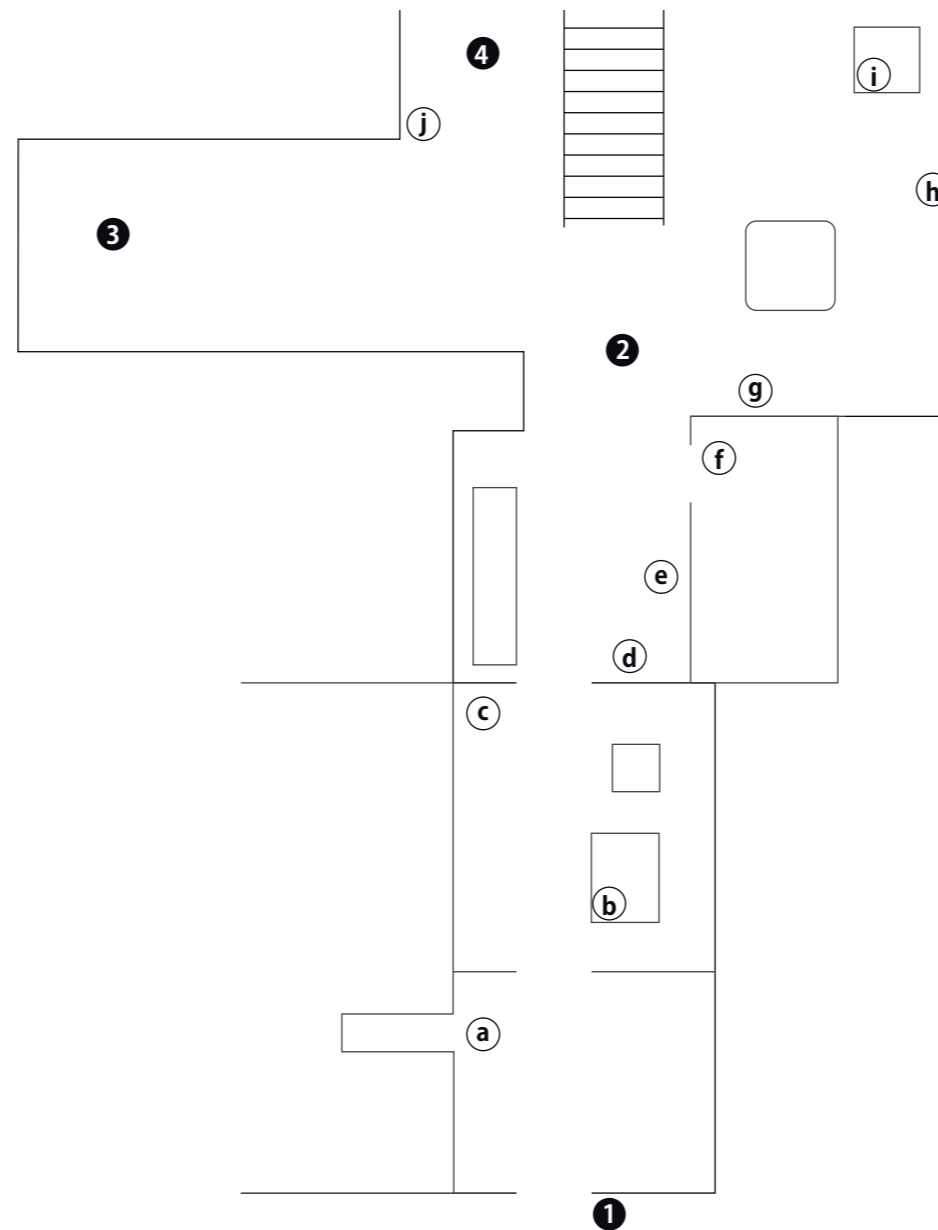
2004

オーエヤマ・アートサイト

〔助成〕京都府文化財活用推進事業



[1階]



① 刻点 2006-5	2006	大理石	h260×w305×d425mm
② 石の軀 III 2009/2022	2009/2022	黒御影石	h1100×w700×d750mm
③ 石の軀 I 2009	2009	黒御影石	h2000×w1000×d750mm
④ 刻点 2006/2022	2006/2022	大理石	h460×w510×d505mm
a work 2016-i	2016	大理石	h100×w100×d100mm
b work 2017-a	2017	黒御影石	h128×w160×d125mm
c work 2016-e	2016	黒御影石	h147×w140×d135mm
d work 2017-d	2017	黒御影石	h240×w200×d200mm
e きざみもの点刻口	2021	黒御影石	h95×w115×d115mm
f きざみもの点刻ハ	2021	黒御影石	h125×w95×d95mm
g work 2016-f	2016	黒御影石	h140×w120×d130mm
h work 2016-g	2016	黒御影石	h140×w250×d160mm
i work 2017-e	2017	黒御影石	h140×w160×d150mm
j work 2017-b	2017	黒御影石	h128×w130×d130mm

[2階 木造]

A きざみもの - 円環のとき -	2019 ~ 2022	黒御影石	
B きざみもの - 水平のとき -	2022	黒御影石	
C きざみもの - 垂直のとき -	2022	黒御影石	
D きざみもの - 積もるとき -	2022	黒御影石	
E きざみえ - 時の環 2019 -	2019	紙、鉛筆	h500×w500mm
F きざみえ - 時の環 2021 近景 2 -	2021	紙、鉛筆	h750×w750mm

[2階 コンクリート造]

一 刻 2004-5	2004	大理石	h240×w260×d1100mm
二 刻 2004-6	2004	大理石	h230×w250×d1080mm
三 刻 2004-7	2004	大理石	h250×w260×d1110mm
四 刻 2004-8	2004	大理石	h230×w250×d1120mm
五 刻 2004-9	2004	大理石	h240×w240×d1530mm
六 刻 2004-10	2004	大理石	h240×w250×d1510mm
七 刻 2004-11	2004	大理石	h220×w230×d1520mm
八 刻 2004-12	2004	大理石	h180×w190×d1515mm
九 刻 2004-13	2004	大理石	h220×w230×d1400mm

京都市内の高校を卒業後、関東に渡って私塾にて彫刻を学び、二〇〇〇年代より本格的に彫刻に取り組み山添潤(やまぞえ・じゅん/京都生まれ、一九七二)は、これまで関東・関西ともに積極的な発表を続けています。とりわけ、茨城県筑波山麓にてほぼ隔年で開催されている野外彫刻展「雨引の里と彫刻」には、二〇〇一年より参加するなど、およそ二〇年以上に渡って「石を彫る」ことに向かいあってきました。

石塊を前に山添は『よくは分からないけど、でも確かにそこに「何か」が在る』といった予感を頼りに、それを確かめるために石を刻んでいきます。目指す完成形や具体的なフォルムを決めずにノミやタガネによって石を打ち、そこに生じた微かな応答を頼りに次を打つ。その軌跡は無数のノミ跡となって残り、ひとつのカタチとなって現れます。それは石との対話の軌跡であり、石と山添が互いを媒介にして発した不定形な聲のように思えます。それはまた、山添の問いへの答えでもあるとともに、山添への新たな問いともなっており、また次の対話へのきっかけともなります。

地球の断片である石を手で彫る

ゆっくりとゆっくりと彫り刻む

おそろしく単調な行為を繰り返す

石は刻々とその姿を変えながら私のノミ跡で覆われてゆく

彫る(減らす)というよりは

自分の力流れてゆく時間などを

石の表面に押しつける(増やす)のような意識で

刻みつけながら石を塊化させてゆく

その時石に寄りかかり過ぎて

自分を押しつけ過ぎてもうまくはゆかない

石との長いやりとりの中

手さぐりで終着点をさがす

そのようにしてゆっくりとゆっくりと

私の彫刻は生まれるのです

こうして山添は、およそ20年に渡って、石、あるいは自分自身との対話を続けてきたといえます。しかし、これまでの作品に見られる「対話の軌跡」には時々の変遷がみられます。

石彫に取り組み始めた当初の山添は、石を素材に「自身が目指すカタチ」に向かって、石を彫っていたように見えます。しかし、技術をもつて石を制し、目指すカタチに石を治わせるかのようなその制作に次第に疑問を抱いた山添は、二〇〇四年の個展に向けた制作において、「微かな予感を頼りに、完成形や具体的なフォルムを決めない」という、現在に至る自身の石彫を模索し始めます。

その最初の取り組みとなった作品《刻2004》「オーヤマ●●●」以後、山添はこのアプローチを深め、作品《石の軀》「オーヤマ●●●」などに見られる「不定形でありながら、確かにそこに在るカタチ」を現すに至ります。

同時に山添は石とノミの接触においても、いくつものアプローチを試みています。鋭利なノミでひとつの点を穿ち、そこを起点に平たいノミで周囲

刻

力は石へと向かう

力は石に残され刻まれる

刻まれると同時にそれに反発し

そこに留まらなかった結果として

碎け飛び散る外へと向かう力が生じる

その外へと向かった力を

再び石の中へと向かわせる

その一打一打にこの身をゆだねてみる

その一打一打に石は包まれる

きざみもの

円筒形にカタチを限定し

ノミを通じて伝わる自分の力を石に刻み込む

石の質量を減らしながら

増えてゆくノミ跡の重なり

単純なカタチの中に様々なものを刻み込めればと思う

私が石を彫りきざむというのは

減らしながら増やすということなのです。

を刻んだもの、先を潰したノミにより石に圧を加え、そこに生じる歪みや揺らぎを増幅させてカタチに結実させたもの。

本企画は、現在に至る山添にとってその起点ともなった二〇〇四年から現在までのおおよそ20年近くの取り組みを、ギャラリー・バルクとオーヤマ・アートサイトというふたつの空間を会場に展開するものです。これにより山添のおおよそ20年におよぶ取り組みを連続性の中で検証し、現在を知り、これからの展開を思う機会でもあります。

このオーヤマ・アートサイトには、一階に大型作品、二階のコンクリートの空間には二〇〇四年の作品を展開するとともに、二階の板間の空間には、円環による時を想起させるインスタレーションを展開しています。

目の前のノミ跡のひとつひとつ、作品のひとつひとつは、現在までに山添が経てきた「時間そのもの」の積み重ねとも言えます。それはまた、地球ともなっている石、築400年を超える旧酒蔵、竣工1年足らずのギャラリー・バルク、いまここに立つ鑑

石を彫るのだから当然質量は減少していくのだけれど

私のノミ・タガネなどを通した力は

石に刻まれながら増えてゆく

そしてその力で石全体を包み込む

きざみえ

紙の中心から放射状に円を描き

外側へ外側へと拡げてゆく

鉛筆の鉛 時間 心の揺らぎ

いろいろなものが円の中に刻み込まれる

石の軀

石を彫る

その瞬間から石の存在は曖昧になってゆく

石は僕の力を呑み込みながら

その質量を徐々に減らす

力と時間が重なり合い纏わりつく痕跡

やがてその集積が溢れ出し塊化してゆく

そこから、僕の仕事が始まるのだと思う

軀をもちはじめた石の確かな存在を感じたい

賞者のそれぞれの時間が、石彫を軸に交錯する機会を生み出します。

山添の予感と検証の行為、そこに現れたカタチはまた、山添の進む「これから先」について、どのような予感を感じることができようか。

山添潤

1971年 京都府生まれ

1995年 KOBATAKE 工房修了

2022 「雨引の里と彫刻2022」(茨城)「01・03・06・08・11・13・15・19」

2021 個展(ギャラリー播・京都)

2020 個展(トキ・アトスペース・東京)

2017 個展(川越市立美術館・埼玉)

2016 個展(Gallery PARC・京都)

2013 個展(Gallery PARC・京都)

2011 個展(ギャラリー播・京都)

2010 個展(メタルアートミュージアム光の谷・千葉)

2009 個展(アトスペース虹・京都)

\* 「Art Court Frontier #7」(Art Court Gallery・大阪)

2008 個展(トキ・アトスペース・東京)

2006 個展(アトスペース虹・京都)

【展覧会概要】

きざまれたもの からみあうとき 山添潤 石彫 2004

2022年11月5日(土)〜21日(月) 期間中(土)日(月)のみ開場 11時から16時30分まで / 入場無料

オーヤマ・アートサイト(京都府南丹市八木町八木鹿草71「八木酒造」)

主催「ギャラリー・バルク 協力「オーヤマアートサイト 助成「京都府文化財活用推進事業」

【同時開催】

からみあうもの きざまれたとき 山添潤 石彫 | 2022

2022年11月5日(土)〜20日(日) 「水」木「木」休廊 13時から19時まで / 入場無料

ギャラリー・バルク(京都府京都市上京区豊楽町287 堀川新文化ビルディング)

【アクセス】

○地下鉄烏丸線「丸太町」今出川駅より徒歩約20分 ○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分 ○京都市バス9番・50番(JR京都駅から約22分・12番(阪急烏丸駅から約15分・67番(阪急大宮駅から約12分)系統)堀川中立売バス停下車徒歩1分 ○駐輪場、駐車場有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

【記録集】

本展の記録集を制作します。記録集・送料ともに無料で一冊お送りしますので、ご希望の方は下記QRコードからお申し込みください。2023年3月頃発送予定

【主催・企画・問・合わせ】

ギャラリー・バルク

075-334-5085 / info@galleryparc.com / www.galleryparc.com

